

久留米 (March 18, 2022)

高専通信

第94号

久留米工業高等専門学校
〒830-8555 久留米市小森野1-1-1
TEL : 0942-35-9300
<http://www.kurume-nct.ac.jp/>

『小森野を巣立つ皆さんへ』

本科卒業生、専攻科修了生の皆さん、ご卒業・修了おめでとうございます。この小森野で多くの級友、諸先輩・後輩と共にキャンパスライフをエンジョイし、学窓を巣立つ皆さんに心からお祝いを申し上げます。

パンデミックのコロナ禍は2年になろうとしています。予想されるエピデミックには未だ遠く、正月早々、オミクロン株の第6波が猛威を奮っています。既に見慣れた風景とは言え、全国民が3密を避けながらマスク姿で日常を送るとは、誰が想像し得たでしょうか。君たちは歴史的出来事のまっただ中をこの小森野キャンパスで過ごし、そして、今、旅立とうとしています。新型コロナは私たち人類に様々な教訓を提示していますが、実践的技術者としてこれからの社会を創っていく君たちに、以下の問題提起をして贈る言葉にします。

この新型コロナウイルスは、英国のアルファ株、南アフリカのベータ株、ブラジルのガンマ株、インドのデルタ株、そして南アフリカのオミクロン株と変異し続け、その地で検出されるや否や、各国での水際対策にもかかわらず、瞬く間に世界中に拡散していききました。感染力の強いオミクロン株はわずか数週間で世界中に拡散しています。このように、グローバル化された世界は人流や物流でその物理的距離が縮まっていることが実感されます。

一方、日進月歩の科学技術は膨大な容量の情報を高速で処理・伝達し、この情報の流れは物理的距離を縮めているというよりは、むしろ、距離を感じさせない仮想空間；メタバースを実現させています。このIT、ICTは情報分野だけではなく、ありとあらゆる業界に進出し、結果として、私たちは実空間だけではなくメタバースでも暮らすようになりつつあります。既に、在宅勤務は定着していますが、好きな地域・場所を居住地として、出社すること無くそこからのアクセスで仕事が出来、メタバースでアバターによる会議、商談が可能です。外出してデパートで買い物するのは無く、メタバースの世界中のデパートでの買い物が可能となります。また、米国の最難関大学のミネルバ大学はキャンパスが無く、全ての講義はオンラインで行われていますが、メタバース内では板書が可能となりつつありますので、将来のある程度の教育機関はメタバース内で実施されるかもしれません。本人そっくりの表情を示すアバターの学生は、いずれ、開発されるでしょう。

このように、私たちの社会は物理的距離というメトリック



久留米工業高等専門学校
校長 本庄 春雄

スを意識しない社会に移行しつつあるようにも見えます。ちなみに、私たちの脳は近くの部位だけではなく様々な部位と瞬時に情報のやり取りをして指令を出しています。結果として、メトリックスという概念が無いように見え、その意味で、私たちの社会は脳構造に向かっているようにも見えます。長い進化を経て私たちの脳構造は形成されてきましたが、その脳が作る社会構造が自身の脳構造に近づいていくとするなら、その意味するところは何か。

さて、このような科学技術の進展を助長させているのがAIです。全ての業界に進出し、私たちの暮らしを便利・快適にしてくれるAIは、私たちの脳機能を参考にしたニューラルネットワークの深層学習で対応します。我々の脳が対応出来るのは一度に5個ぐらいの要素しかありませんが、AIが対応出来る要素はその比ではありません。確かに、最初は人間がAIのアルゴリズムを創りますが、汎用型AIやスーパーインテリジェンスが話題になるように、AIは独自の進化を遂げようとしています。最近のAIは人類の膨大な経験を学習するだけではなく、独自の試行錯誤から学習します。2015年に人間の棋士を破って話題になったアルファ碁は、今となっては、進化したアルファ碁ゼロには太刀打ちできません。そして、その進化は止まる所を知りません。すでに、AIが動かす複雑な金融システムの全体像を理解している人間はいなくなっているようですが、世界中の金融はそのシステムで動いています。システムは、一般に、構成要素、それらの相互作用、機能や目的で構成されますが、現代社会の様々なシステムにおける膨大な構成要素とそれらが及ぼし合う膨大な相互作用の理解と制御は人智をはるかに超えています。我々人類はAIと共存するのか、入れ替わるのか。AIは人類との共存を選択するのか。1960年代にレイチェル・カーソンがその著書「沈黙の春」で環境問題を世に問い、SDGsが人類の今日の課題として取り組まれているのとは、質的に異なる課題です。

このような課題への応えを求められているのが、君たち、若い技術者です。様々な理解の仕方はあるとしても、我々の社会は必然として今がある訳ではありません。だとすれば、別の選択肢があり得ます。それを模索・提案・創造するのが君たち、若い技術者と確信します。

君たち、卒業生・修了生に未来を期待して、贈る言葉とします。

卒業生の言葉

ちょっと遅めの青春

機械工学科 5年 小手川 新

朝の登校中に好きな子と挨拶できたり、テストで思いがけず良い点を取ったり、休み時間に体育館や教室で楽しい時間を友達と過ごしたりと、学校生活の中で喜びを感じる場面は人それぞれだったことでしょう。私達にとって、そのような時に自分の生活に希望を感じるのはあまり難しいことではありません。しかし、この先そうでない日も必ずあります。5年間を連れ添った仲間と離れ、人によっては全く知らない土地や環境で新生活を歩まなければならないでしょう。そんな時こそ希望が必要なのです。どれほど落ち込んでいても、どれほど喪失感に苛まれても、希望を抱き続けることを忘れないでください。希望を捨てず苦しみを負けない強さを持つのです。そして、私たち自身が誰かの希望そのものになることも出来るはずです。たとえそれが及ばずとも、それは私たちの人生をきっと明るいものにしてくれます。

高専入学当初は、自分たちの学校生活や青春の日々は永遠に続くと思えるほど、限り無く壮大なものに見えていました。それは人生についても同じことが言えます。無限に続きそうな日々の中でついつい何となく過ぎてしまうこともあるはずですが、しかし、学校生活でも青春の日々でも私たちの人生でも、何事にも終わりは必ず存在します。やがて終わってしまうからこそ貴重なのです。また、その貴重な時の中で何に価値を見出すかは人それぞれで大丈夫なのです。世間一般的に見て平凡だと言われようが、面白くないと言われようが、他人の言葉に左右されず自分の人生を大切にしましょう。自分のいる場所こそが自分の居場所だと胸を張って言えるようになりましょう。そして自分にとって大事なもののために闘って模索しながら進む、それこそが最高の人生です。

最後に、5年間も時間を共有した仲間たちというのは、この先もなかなか得難いものだと思います。一緒に部活動や委員会に取り組んだ人もいます。一緒にゲームで遊んだり、ご飯を食べたりした人もいます。そういう日々の一つ一つの小さな出来事が尊く価値があり、私たちの希望であったことを忘れないでください。これからの変わりゆく生活も同様に素晴らしいもの出来るということを忘れないでください。一人一人の価値観は違うので、これだけは自信を持って言えると思います。この5年間は誰よりも楽しい時間を過したと。そして、今周りにいるのは、今の私たちを作ってくれた人たちです。別れるのはとても辛く寂しいことですが、お互いに与え合ったものがこれからの人生で私たちに教えてくれるはず。自分が何者なのか、自分に何が出来るのかということ。

この素晴らしいちょっと遅めの青春を共に過ごした仲間を私は忘れません。

関わってくれた全ての方々へ感謝

電気電子工学科 5年 野田 楓人

この挨拶文を書いてもらえないかというお話を頂き、書いているうちにやっと本当に卒業するんだという実感が湧いてきました。碌な文章ではないと思うので先に同期の皆に謝っておきます、僕が代表でごめんなさい。

さて、こういった挨拶文で「振り返ればあつという間だった」という文章をよく目にしますが、僕の感覚は正反対でものすごく長かったし、濃い5年間だったと思います。5年前、高専に入学した当時の僕は周りの学力の高さに圧倒されていました。数学の授業で出された問題に苦戦していたとき、周りのクラスメイトは既に解答を終えペンを置き涼しい顔をしていました。(僕の目にはそう映りました。) それを見て、ここでは通用しないのかもしれないと不安になっていたことを強く覚えています。その出来事のインパクトが僕にとってあまりに強く、クラスメイトとはレベルが違いすぎてクラスに馴染めないかもしれないと思っていましたがそんなことはなく、面白い人たちがばかりで楽しい5年間を過ごすことができました。例えば、立て替えたライブのチケット代を「また今度返すから!」と言いながら5ヶ月返してこずライブの前日にやっと返してきた人や僕が何をやっても「野田君はすごい!」、どんなに不安がっていても「野田君ならいけるって!」と無条件かつ無根拠に全肯定してくれる人など面白いクラスメイトを挙げればキリがありません。

しかしそんなクラスメイトたちと教室で顔を合わせ、くだらない話をして盛り上がる事が出来るのもあとわずかと思うと少し、いやかなり寂しいです。僕は卒業後、地元を離れる予定ですが、地元を出て2ヶ月後くらいには高専時代に戻りたいと、1年生での夜須研、終わらない製図の課題を残ってやっていたこと、唯一積極的に参加した5年生の時の体育祭などを思い出し、感傷に浸っているでしょう。こんな感情を抱くのも素晴らしい同期の皆に恵まれたからだと思います。本当にありがとう、皆と同じクラスでいられたことに感謝します。皆それぞれ違った道を進んでいくことになりましたが、10年後、20年後またいつか集まってアルコールの入った水分補給をしながら、懐かしい話、卒業後の話で盛り上がるような日が来ることを楽しみにしています。皆どうか元気で、いつかまた会いましょう。

最後になりますが、電気電子工学科の先生方を始めとし、久留米高専の教職員の方々には大変お世話になり、たくさんご迷惑もおかけしました。僕たちが高専を無事?に卒業出来るのはみなさんのおかげです。ありがとうございました。

そして最後の最後に高専通信のスペースを私物化させて頂いて両親へ感謝します。2人がいなければ今の僕はありません、本当にありがとう。

卒業生の言葉

自分らしさ

制御情報工学科 5年 竹見 尚也

先日、コロナウイルスの拡大で制限を設けた上で成人式と同窓会が行われました。中学校時代の旧友と再会し、成長した姿を感じつつ、中学校時代の面影も感じることができ、20歳としての自覚と決意を育むものとなりました。ここで高専入学時を振り返ることにします。私は中学時代、よく喋り、よく笑い、よく歌い、すぐ落ち込む、そのような人間だったと思います。あれ、今となにも変わっていないかと、綴りながら驚きました。

高専生活5年間で勉強、部活、アルバイト、学生会活動など様々なことに励んできたつもりでいました。いろいろな困難を乗り越えてきたつもりでいたので勤勉で誠実、慈愛のある人間になっていてもおかしくないところですが、上記の通りです。さて、これは悪いことなのか?と考えるとそうでもない気がします。なぜならそれが自分自身のからです。

今まで周りの人に大なり小なり迷惑をかけているとは思いますが、自分がダメな人間だとは思いません。図太いやつだなど思った方もおられるかもしれませんが変に自分を変えようだとか、他人に合わせようだとか考えることより、自分の意見を持つことの方が大切だと思います。久留米高専の良い所は高度な専門的知識を得られることと、学生一人一人がのびのびとできることだと思います。のびのびすぎて留年、退学してしまった友達もいますが、自分を成長させる場所としてはうってつけだったと思えてなりません。在校生の方は思い立ったことをすぐ取り組んでほしいと思います。勉強、スポーツ、その他なんでもいいです。思いついたその時に実行することがベストです。周りにどう思われるかは行動した後に考える、それくらいの勢いで行動してください。案外大丈夫だったりします。

ここで自分の好きなアーティストであるSUPER BEAVERさんの「秘密」という曲のフレーズを引用させていただきます。「歓びに声を上げ叫ぶのは 幸せに手を叩き笑うのは 好きなこと好きな人のことを諦めなかったそんな瞬間だろう」この曲に僕は何度も背中を押されました。なりたい自分像を想像して諦めずにこれからも努力していきたいと思います。この文章をここまで読んでくださった方はありがとうございました。在校生の方、自信をもって高専生活を楽しんでください!

高専で成長したこと

生物応用化学科 5年 小川 千尋

入学から卒業に至るまで支えてくださった先生方や友人、家族にこの場をお借りして感謝申し上げます。今思い返すと、久留米高専で過ごした5年間は私にとって一瞬で、でも忘れられない時間だったと感じています。私は5年間で多くのことを学び、大きく成長しました。そんな私が変わるきっかけになった出来事がいくつかありました。

一つ目に高専でできた友人達の影響です。中学生の頃の自分は、同じ趣味をもち、理解してくれる人が全くいなかったため、自分のことをあまり話そうとせず、人の趣味にもあまり興味を持ってませんでした。私はいつからか、相手に対して勝手な先入観をもつようになっていました。そのため入学した当初は、『そんな自分が初めての環境で出会う人達とうまくやっていけるのか』という不安がずっと残っていました。しかし、実際に人と接してみるととても驚きました。それは、みんなそれぞれ趣味がバラバラなのに、人の趣味を馬鹿にするような人がほとんどいなかったからです。その時に勝手な先入観で物事を決めつけていた自分を恥じました。その経験があって、私は先入観を捨て何事もまずは挑戦することから始めるようになりました。結果的にその行動が自分の内面的な部分に良い影響を与えてくれることになりました。それぞれの趣味や思想を、自分や相手が肯定的に共有することで少しずつ自信が持てるようになったのです。自分が自信を持てるようになったきっかけをくれた友人達に感謝しています。

もう一つは、高専祭実行委員を務めたことです。中学まではこのような経験をしたことなかったのも何かもが新鮮でした。4年もの間実行委員を続けましたが楽しいことだけではありませんでした。後輩ができ、指示する側に立つようになると多くの人をまとめる大変さを痛感しました。しかし、みんなのためになってると思えばそのつらささえも楽しむことができました。苦労やつらさを楽しむという経験は、将来仕事をするときにとっても大切になることだと思います。高専祭実行委員では困難を乗り越える大切さを実感することができました。

これらのほかにも色々な経験を積み重ね少しずつ成長してきました。大変なこともありましたが、それでも私は高専に入学して良かったと思っています。私は卒業したら実家を出て就職します。仕事を始めたら支えてくださった方々に恩返しをしたいと思っています。特に卒業まで支援してくれた父に感謝しています。私は4年生の夏に母を亡くし、恩を返せなかった後悔がずっと残っています。なので後悔のないように母の分まで父に恩返しをしていきたいです。最後に、高専生活を支えてくださった皆様に感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。

卒業生の言葉

See You Again

材料システム工学科 5年 牟田 歩夢

5年前の春入学し、あっという間に卒業目前となりました。入学当初は友だちができるか、勉強についていけるのか、年の離れた先輩方と仲良くできるのかなど不安な気持ちでいっぱいだったことを覚えています。しかし、夜須研やクラスマッチを通して級友との距離がぐっと縮まり、部活動でも新入生歓迎会を行っていただいですぐに馴染むことができました。それから、文化部発表会や高専祭など様々な行事を通して年の差関係なく多くの出会いに恵まれ、友人や先輩後輩とたくさんの思い出を作ることができました。

課外活動では、バドミントン部に所属して、きつい日々の練習や強化合宿に本気で取り組みました。そして大会では実力以上の実績を上げることができました。この経験を通して、地道な努力の大切さや仲間との協力の大切さを学びつつ、楽しい思い出もたくさん作ることができました。その他にもクラスマッチや応援団など様々なことに参加してきましたが、どれもこれも本気でやるととても有意義な時間になりました。これから高専生活を送る皆さんには、何でもいので学生のうちに本気で物事に取り組んでみてほしいです。

日常生活では、テストやレポートに苦しめられたり、ときには喧嘩もしたりして、いろいろな壁にぶつかってきましたが、クラスの人々と助け合い様々な困難にも立ち向かって日々を送ってきたと思います。いま思えば、何気ない授業の1コマ1コマや仲間とふざけあった昼休み、放課後の時間、休日、どんな時も素晴らしい思い出です。その中でも印象的な出来事は、高専祭の応援団での活動です。日頃関わりの少ない後輩や先輩方とコミュニケーションをとりながら1つ1つの動きを合わせたり、細かい指先や歩幅まで考えて改善点を模索したりして、演舞を作り上げる達成感は一生涯忘れられないものになりました。

57期のみならず過ごした5年間は何物にも変えられない宝物となりました。この2年間は新型コロナの影響で、工場見学旅行や高専祭の出店、インターンシップなど楽しみにしていたことが奪われてしまいました。それにも関わらず、ここまで最高の思い出ができた57期は最強のクラスだと思っています。今までありがとう。そして、これから卒業して専攻科に行く人、大学編入する人、就職して社会人になる人いろいろ進路が違って新しい環境に不安もあるかもしれないけど、57期のみならず絶対大丈夫!いつか再会したときにいろんな話が聞けることを楽しみにしています。See You Again.

最後になりますが、5年間ご指導いただいた先生方、先輩後輩、高専に通わせてくれた両親をはじめ、私の高専生活を支えてくださった全ての方に感謝します。ありがとうございました。

修了生の言葉

高専での9年間で学んだこと

機械・電気システム工学専攻 2年 相園 晃佑

冷え込みがますます厳しくなってきました、皆様いかがお過ごしでしょうか。私は今年度で専攻科を修了し久留米高専から旅立ちます。卒業後は東京大学の大学院へ進むことになっており、東京での初めての一人暮らしへ向けて身の引き締まる思いです。振り返ると、本科も含めて9年もの期間をこの久留米高専で過ごしました。普通であれば本科が5年、専攻科が2年で合わせて7年間です。他の人よりも2年多いです。というのも私は本科の4年と5年のときに合わせて2回の留年をしてしまいました。1回目の留年ではレポートをため込みにため込んでしまい最終的には自らがため込んだレポートの量に絶望し、途中から学校に行かなくなりました。2回目は自分の悪癖である寝坊によって体育を6回欠席し、単位を落としました。当然のことなのですが留年はあまり良いものではありません。自分の人生の貴重な1年を消費するだけでなく、学費の面で親に多大な迷惑をかけることになります。

高専は留年が多い学校ですので、私と同じような状態に陥ってしまいそうな方も少なからずいらっしゃるかと思います。折角の機会ですので、この紙面をお借りして現在留年しそうな方・既にしてしまった方へメッセージを送ろうと思います。私は留年を通じてあることを学びました。それは「何故」を考え過ぎないということです。これは何も思考を放棄しろというわけではありません。自分の未来について真面目に考えることは大切です。

しかし、それ以上に重要なことがあります。それは行動することです。私は、この「何故」の沼にずっとハマったままです。「何故こんな大量のレポートをやるのか」「何故試験勉強をしないといけないのか」「自分のやりたいことを優先させたほうがいいのか」など、そんなことにずっと頭を悩ませていました。結局悩むだけ悩んで行動せず、そのまま時間を浪費してしまっているだけで傍から見ればただその場で足踏みしているような状態でした。ここまで極端じゃなくとも、悩んで行動できないということはよくあることかと思えます。しかし、未来がどうなっているかなんてわかりません。自分が嫌いだと思っていたものに触れてみたら案外面白かったなど、行動してみないとわからないことが多いです。私にとっては英語がまさにそうでした。

私は昔から英語が大嫌いだったのですが、文法を学んでみると意外と面白く、洋画を見るようになってからはもっと英語を学びたいという気持ちが高まり、気付けば英語への苦手意識は消え去っていました。結果的に TOEIC の成績も良くなり、東大院の試験に役立てることができました。時間は有限です。ぜひ、食わず嫌いをせず、行動し続けてみてください。

修了生の言葉

高専生活7年を終えて

物質工学専攻 2年 小川 祐太

7年という実に長い高専生活もついに終わりを迎えることとなりました。振り返ると、部活動や学校行事、課外活動などを通じて、勉強以外にも様々なことを経験した充実した学生生活を送ることができたと思います。修了生の言葉として執筆させていただく貴重な機会を頂きましたので、私の高専生活の振り返りを記したいと思います。

皆さんは中学校からの進学先はどのようにして決めましたか？どの学校に進学するかいろいろと悩んだと思います。私もその一人でした。公立か私立か、普通校か専門学校かなど様々な選択肢があったと思います。その中でも、高専という存在は少し異質ではないかと感じませんでしたか？多くの人は3年で修了する学校に進学して、そこから大学に進学するか、就職するかだと思います。しかし、高専は5年で修了するので、一般的な進路とは異なる部分が多く、選択しづらい学校であると感じます。そのうえ、マイナーな学校であるというイメージが強く、実際に高専って何？という人も多くいたりします（最近では、某高専卒 YouTuber により知名度が上がっている気がします）。

では、なぜ私が高専を選んだのか、それは学校生活の自由度が高いからです。高専には、朝課外授業もなければ、厳しい校則もなく、生活を送るうえでのストレスをあまり感じさせません。授業さえ終わってしまえば、残りの時間は個人の自由なので、やりたいことに集中することができます（もちろん課題やレポートが大量にあるときはこの限りではありません）。私はこの自由時間を、部活動や文化祭実行委員会、アルバイトにあて、自身のスキルアップを図りました。学業との両立は大変でしたが、学科・学年を超えてのコミュニティの中での経験、社会の中での経験と様々な経験値を得ることができました。

高専生活がいいことばかりであるように書いてきましたが、やはり学業との両立は大変です。大量の課題やレポートに追われた人、再試に追われた人、心中お察しします。実際、私も大量の課題やレポートに追われましたし、赤点も取って再試を受けました。そのたびに、友人たちや先生方の力を借りたり、とにかく時間を費やして対策したりして乗り越えてきました。なんでこんなに課題とかレポートとか出すんだよ、テスト難しくね？全然解けんけど、って気持ちになりますが、不思議なことにこなしているうちに、ある程度書けたり、解けるようになっていたりするんですねこれが。慣れて怖いですね。そんなわけで、現在進行形で四苦八苦している在校生の皆さん頑張って乗り越えてください。

最後に、この場をお借りしてお世話になった先生方、同期の皆様、日頃から支えてくださった母に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

本科5年クラス担任・専攻科主事からのメッセージ

機械工学科
5年担任

渡邊 悠太



自信をもって社会へ飛び立って

機械工学科5年生の皆さん、卒業おめでとうございます。コロナで平常通りの生活ができない中、ここまで来るまでには様々な苦労があったかと思います。在学中は試験の出来に一喜一憂し、成績通知書が届くことが憂鬱だった人もいるでしょうが、卒業を認められたということはエンジニアとして活躍する素養があることの証左です。自信を持ってください。この先の社会がどうなっていくか見通しが立たない昨今ですが、手探りで遠隔授業がはじめられた中でもいち早く順応し、新しいツールを活用することのできた皆さんですのでどのような環境になろうともそれに適応し活躍してくれると確信しています。

電気電子工学科
5年担任

原田 裕二郎



ご卒業おめでとうございます。

電気電子工学科5年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。君たちが4年生のときに新型コロナウイルスが蔓延し、遠隔授業が始まったり、工場見学旅行やインターンシップが中止になったりと、進路への不安も大きかったことだと思います。しかし、そんな中でも明るく前向きなクラスで、困難にも負けずに努力できたことを担任として誇りに思っています。これからも辛いこと、大変と思うことが山ほどあると思いますが、高専での5年間の思い出を胸に、自分のやりたいことにどんどんチャレンジしてください。これから始まる新しい所での活躍を期待しています。

本科5年クラス担任・専攻科主事からのメッセージ

制御情報工学科
5年担任

中野 明



あなたは可能性の塊！

卒業おめでとうございます。あなたは、可能性の塊です！
苦勞の多かったあなたは、苦勞を乗り越える術を得て、より大きく成長しています。賢いあなたは、自分の将来、自分の進む道は、自分自身が選択しなければいけないことを知っています。元気なあなたは、試行錯誤をしながらも、希望と勝利の道を切り開いて行けます。
どんな人生を歩みたいのか、そのために何をすべきか、自分で考え、行動してください。上手くいかないことがあったとしても、後ろ向きにならず、笑顔で乗り越える、それが高専健児！
あなたは、可能性の塊です！人生を謳歌するあらゆる可能性を持っています！

生物応用化学科
5年担任

我部 篤



新しい時代を創ってください

生物応用化学科5年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。人生を白い大きなキャンパスに例えた時、卒業を迎えた今、皆さんは何を描いていますか？皆さんがキャンパスに描くものは、自由です。それぞれの個性を大いに活かし、未来を切り開いて行って下さい。しかし、自由はいつも責任と隣り合せでもあります。前に做えと言われれば、それに従う事で評価されやすい日本社会。しかし、型にはまらない事で、生み出される多くの事がある事も忘れてはなりません。正に皆さんが高専生活で過ごした日々は型破りの連続だったのではないのでしょうか？私のキャンパスもまだまだ中盤。みなさんと共に描ける未来を楽しみにしています。

材料システム工学科
5年担任

小袋 由貴



卒業おめでとうございます

材料システム工学科5年の皆さん、卒業おめでとうございます。また、ご家族の皆様にも心よりお祝い申し上げます。初めての担任業務であったため、至らぬ点も多々あったかと思えます。5Mの皆をはじめ、多くの方々の助けを借りて、学生と共に成長しつつ、本日の卒業式を迎えることができました。有難うございます。皆さんの晴れ晴れとした笑顔を見ることができ、嬉しく思います。卒業は、新たな段階の第一歩を踏み出すスタートです。進学、就職と道は分かれています。高専で学んだこと、悩んだこと、経験したことは将来必ず役立つと信じています。一時的な失敗や恥など恐れず、自分らしく粘り強く前進してください。いつも応援しています。

専攻科主事

川上 雄士



アフターコロナの世界に向けて

専攻科修了生の皆様、専攻科課程修了と工学士の学位授与おめでとうございます。皆様が専攻科に在学された2年間は、まさに with コロナの2年間になってしまいましたね。インターンシップが中止になり、就職・進学での面接試験も遠隔になり、学会の参加も遠隔開催で制約の多い専攻科生活でした。このパンデミックの状況で数少ないメリットがあるとするれば、皆さんと同じ年頃の世界中の学生が同じような経験をしていることです。遠隔での講義にも慣れ、オンラインでの研究発表もこなした事でしょう。これから皆さんが出て行く社会や学校には、同じような経験をした仲間が大勢いることを強みとしてコロナ後の新しい世界で頑張ってください。

退職教職員挨拶

お別れにあたって

制御情報工学科 特任教授 丸山 延康



平成16年10月1日本校に赴任して以来、今年3月で17年半教員として勤務しました。17年半という年数は長くないのですが、この間、教育・研究、クラブ顧問、国際交流活動など色々な経験をさせて頂きました。赴任当初、教員と校長を含めた管理職との激しい対立を目にして、エライところに来てしまったかなと戸惑っていましたが、その後、学校が平穏を取り戻し、学科の先生達のお助けとご協力を頂きながら今まで無事にお勤めができました。また、事務職の方々にもご協力、フォローを頂きました。大変感謝しております。当時の学科長の川口先生から本学科が機械・電気・情報の3本柱で成り立っていると力説されましたが、近年では機械や電気分野の教員の減員や、情報分野志向の傾向により学科のカリキュラムが情報系に傾き始めています。この状況をきっかけにしてより良い学科の再建を期待致します。

よい先生に出会えますように！

電気電子工学科 教授 加藤 直孝



会う前からフルネームを覚えていてくれた先生がいる。万葉学者の犬養孝先生だ。学生時代、大学の万葉旅行の会で、歌が詠まれた全国各地へ赴き一緒に歌を詠んだ。太宰府天満宮にも来た。千曲川にも行った。「信濃なる千曲の川の細石も君し踏みてば玉と拾はむ」そこでこの歌をみんなで詠んで小石を拾いました。いまでも小石を覚えています。先生の話はこうです。「千曲の川の小石であっても、好きなお前ちゃんが踏んだ石なら玉だわ、ダイヤモンドだわ」と言ってその小石を胸に抱いている。魂は触れた物に引っ付いて広がっていくのです。話変わって、TeXは1人称で話す。クヌース先生に聞いた。TeXには魂(soul)があるとお考えですか。するとその答えはこうだ。「魂があるかないかはわからない、でもCPUがアルゴリズムを伴って動くときそれは存在するね。」私は先生に恵まれた。

お世話になりました。

生物応用化学科 教授 富岡 寛治



2000年に久留米高専に奉職し22年が過ぎてしまいました。この間に会うことができた学生、教職員、地域関係機関の皆様を思い起こしています。本当にお世話になりました。衷心よりお礼申し上げます。特に卒業していった学生に対しては、少しでもお役にたてたのであれば、この上もない喜びです。久留米に引越して来て新鮮な印象は、自転車で錆がこないことでした。それまで瀬戸内の海岸線エリアに住んでいたので海水の影響をもろに受けていました。ひょっとして自分の錆も遅くなるかもと思ったりしましたが、やはり自身の錆は確実に進行したようで、活性酸素の攻撃も避けがたく身も心も潮時と感じています。定年ってよくできたシステムだと思います。後悔は無いですが反省点がまことに多い22年でありました。工業学校として理想をかざせる久留米高専の発展を心より祈念しています。

久留米高専での3年間

総務課 総務課長補佐 坂田 徳子



3年という短い間ですが、久留米高専の皆さまには大変お世話になりました。九大から出向してきた3年間新型コロナ等色々ありましたが、一番印象に残っている出来事は「大雨」でした。来る前には久留米高専って大雨が降ったら土地が削られるらしいと冗談を言われ、着任したら大雨降ったらここは水没するよと脅されたのも懐かしい思い出です。ハザードマップが真っ赤という土地に学校建てるかと呆れても、移転や建物の高層化といった根本的な解決は出来ない条件で、久留米高専の大雨に対する予防や発生時の危機管理は非常に勉強になりましたし、考えさせられる事も多かったです。水害というリスクを負っていても、久留米高専ならばその時々で最適な解決を見つけるだろうと信じる事が出来た3年間でした。末筆ですが、皆さまのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

大変お世話になりました。

総務課 総務係長 菅野 貴公



久留米高専の皆様には、本当に大変お世話になりました。平成31年4月より3年間という短い期間ではありましたが、思い返すと本当に色々な事がありました。平成から令和に変わった事。7年に1度の機関別認証評価受審対応。新型コロナ対応。迷い犬や弱った鳥の預かり・・・etc 初めての係長職、未経験の業務(国際交流、広報、自己評価)対応もありましたが、3年間なんとかやってこられたのは、ひとえに総務係職員の皆様をはじめとする、久留米高専教職員の皆様のおかげです。この間、プライベートにおいても色々大きな環境の変化がありましたが、今後の人生観にも影響があるほど、沢山の学びをさせて頂いた3年間だったと感じております。

九大に戻りましても、色々とお世話になる事があるかと思いますが、その節は何卒よろしくお願いたします。

専門学科の実験・実習の様子

機械工学科

機械工学科では1年生から5年生まで各学年で実験や実習を行っています。実験・実習を通して実践的・創造的技術者になるための基礎を体得します。今回は、「機械加工実習」について概要を説明します。

1～3年生までの低学年では「機械加工実習」を行っています。実践的・創造的技術者になるために、低学年から機械、工具、道具、計測機器等の実際のモノに触れ、加工に関する基礎的な現象を体得、認識します。また、図面に示す部品を実際に加工し、その際の現象や事象をしっかりと体得し、本質を取り違えないエンジニアとしてのスキルを身に付けます。

実習はまず安全教育を行い、作業の安全上の留意点を理解し、怪我や災害のないように作業服、安全靴、保護メガネ、帽子を着用した上で行います。1、2年生では、製品のできる流れを理解する実習を行います。木型、鋳型・鋳造、旋削加工、手仕上げ、鍛造の5つの工程を8名程度のグループで2年間かけてモノづくりの基礎を学びます。単にモノを作るだけではなく、熱、音、匂い、振動、手触りなどを経験することで、今後の設計や解析など行う上で必要な知識を得るとも重要な実習になります。3年生ではさらに広範囲の機械、工具、計測器などを使用し、平面を加工するフライス加工、製品の表面を滑らかにする研削加工、歯車を作るホブ切り、コンピュータを使ったNC加工などを新たに加え、様々な加工を学びます。

以下に実習の内容を簡単に紹介します。

- 木型 : 製品と同じ形のを木で作る。
- 鋳型・鋳造 : 木型を用いて砂に製品と同じ形の穴をあけ、そこに溶けた鉄を流し込み製品を作る。
- 旋削加工 : 軸などの円柱状の製品を加工する。
- 手仕上げ : ヤスリやキサゲ工具などを用いて機械部品の最終仕上げをする。
- 鍛造 : 熱した材料をハンマーなどでたたいて変形させ製品を作る。
- フライス加工 : 平らな面を加工する。
- 研削加工 : 砥石を用いて表面を滑らかにする。
- ホブ切り : 歯車を作る。
- NC加工 : 数値制御 (Numerical Control) 工作機械を用いて製品を作る。



旋削加工



鋳型・鋳造



溶接



NC加工

専門学科の実験・実習の様子

電気電子工学科

電気電子工学科では座学で得られた知見等を『実験・実習（及び演習）』を通して体験的に学び、これらをより深く具体的に習得することを目指しています。高専通信第92号で、当学科の実験実習の概略について記しましたので、今号では4年生通年科目の『電気電子実験2：後期分』にスポットを当てて解説します。

この実験では「電気機器や電力機器の特性を測定、或いは電子回路の設計・及び測定を行い、得られた実測データを用いて特性や機能を説明できる」ことを目的とし、後期分では①誘導電動機、②同期発電機・電動機、③パワーエレクトロニクス（写真1）、④太陽光発電と系統連系（写真2～4）、⑤HDL（Hardware Description Language：ハードウェア記述言語）による論理回路設計の5テーマの実験を行います。

今回はその中で「太陽光発電と系統連系」について解説をします。同実験では再生可能エネルギー源として積極的導入が進行中の太陽光発電に関し、以下の2つの異なった視点からの実験を行います。

【実験1：太陽光発電】この実験では太陽電池パネルの発電特性の測定・分析を行い、(写真2)に示すように太陽電池パネルに当てる光の強度を変えながらパネルの特性について測定・分析を行います。

【実験2：太陽光エネルギーの系統連系試験】太陽電池パネルで発電された直流電力は、パワーコンディショナによって交流電力に変換された後、電力系統に接続（系統連系）され、それにより太陽電池の発電で賄いきれない場合は不足分を買電（潮流）し、余剰電力がある場合は売電（逆潮流）を行います。この実験では、図書館屋上に設置した太陽電池パネル（写真3）から得た実際の日射量や温度データを元に、直流電源を用いての発電電力のシミュレーションを行い、潮流及び逆潮流の様子を測定します（写真4）。太陽電池模擬電源システム（直流電源、模擬コントローラ、太陽電池模擬システムソフトウェア）、パワーコンディショナ、交流模擬負荷装置、系統模擬電源、三相信号発生器からなる装置一式を用いて実時刻における各種値（太陽電池電力やパワーコンディショナ電力、系統電力、パワーコンディショナ効率等）の変化の測定・分析を行います。

このように多角的な視点からの実験を通してクリーンエネルギーの一翼を担う太陽光発電について幅広い知見を体験的に得ることができます。



写真1 パワーエレクトロニクス実験



写真2 太陽光発電実験



写真3 図書館屋上の太陽電池パネル



写真4 太陽光発電シミュレーション実験

専門学科の実験・実習の様子

制御情報工学科

制御情報工学科では、制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得することを目的とし、専門科目は、共通基礎、メカトロニクス（機械と電子工学の融合）および情報に分類することができます。高専通信第92号では、各実験・実習科目の概要を紹介しました。この中で、「加工実習（2年）」、「電子情報実験（4年）」および「制御工学実験（5年）」は、メカトロニクスに関連する科目であり、「情報通信実験（5年）」は、情報に関連する科目になります。

メカトロニクスに関連する実験・実習では、主に専用の装置や機器を使って実験したり、加工法を習得したりします。一方、情報に関連する実験では、通信やプログラミング等によるソフトウェアに関する内容になります。情報に関連する実験は、実験科目の他に、演習科目でも実施しています。演習科目で実施する実験（演習）の利点は、同一科目内で演習に関連する講義ができることです。今回は、3年開講の演習科目「電子計算機基礎」における人工知能の演習を紹介します。

近年の「データサイエンス（データを扱う情報科学）」の重要性の高まりを受け、当学科では、教育課程を一部改正し、来年度より、4年および5年で「データサイエンスと人工知能」の科目を開講します。「電子計算機基礎」における人工知能の演習は、「データサイエンスと人工知能」の事前学習の位置付けで、体験的な演習内容です。演習のミッションは、前方のカメラ画像だけで走行方向を決定する人工知能を「学習」させ、予め設定したコースをうまく走行させることです。人工知能として、多量のパラメータをもつディープラーニングと呼ばれる学習モデルを用い、多量のデータを学習することにより、コースをうまく走行させることができます。演習では、ラジオコントロールカーで手動走行させ、前方の画像とその時の走行方向のデータを多量に取得します。取得したデータを用いて、コンピュータ上でパラメータの値を計算します。そのパラメータの値で走行車を動かし、どのように走行するかを観察します。受講した学生は、人間が自然に行っている運転が機械も同様に行えることを体験するとともに、学習に用いるデータの取得方法の難しさやデータの重要性を認識します。

今回は、情報に関連する演習として人工知能の演習を紹介しましたが、他の科目でもさまざまな演習を行っています。次の機会にでも紹介できたらと思います。



カメラと AI を搭載した走行車



AI 走行を観察している様子

専門学科の実験・実習の様子

生物応用化学科

生物応用化学科では低学年より実験・実習を設定し、科学技術の実際に触れることで、その理解を促すとともに、高学年ではさらに専門的な実験や卒業研究により、エンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。生物応用化学科の学生たちは以下のような実験・実習を通して、化学や生物学に関連する基礎的な実験技術と実験データの解析方法、そして実験レポートの作成能力の習得を目指し、応用化学や生物化学の素養と実践的能力を伸ばしていきます。

【創造化学実験：1年】

化学物質及び生体物質を扱う生物応用化学の入門実験です。応用化学関連では、セッケン、ナイロンなど実際の化学製品を合成します。生物化学関連では植物の栽培、発酵（パン作り）などの実験を行います。

【分析化学実験：2年】

分析法が系統的に確立されている第1属～第3属陽イオンの定性分析を通して、薬品やガラス器具の使い方を修得し、金属イオンの反応を理解します。

【基礎生物化学実験：2年】

マイクロピペッターの操作、ビタミンCの定量、緩衝液の調製、顕微鏡観察、酵素反応などを学びます。

【有機化学実験：3年】

有機合成化学実験の基本的な操作である混合、溶解、加熱、冷却、蒸留、再結晶、抽出などの方法を学びます。

【生物化学実験：3年】

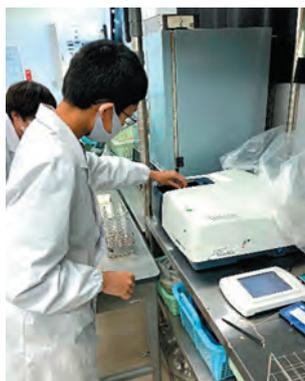
微生物を中心とした生物の観察・同定や遺伝子工学のPCR実験などを通して、将来のバイオ工業技術者として必要な知識を体験的に学習します。

【応用化学実験、生物工学実験：4年】

これまでに学んだ応用化学や生物化学関連の専門知識並びに低学年での実験・実習を踏まえて、各研究室で行われている卒業研究を体験します。本実験の習得が5年生での卒業研究への糧となることを目標としています。

【卒業研究：5年】

各学生が独自の研究課題を持ち、指導教員の下で研究の背景を調査し、実験を行い、結果をまとめて考察し、発表（口頭発表・論文作成）する能力を身につけます。



専門学科の実験・実習の様子

材料システム工学科

「ものづくりの基礎となる工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の破壊、リサイクルまでの材料に関する一連の専門知識を身につける」ことをコンセプトとして、5年前に「材料システム工学科」へ名称変更を行いました。この名称変更に伴い、学習する実習や実験について大きく見直しました。今年度は、5年生が見直された実験・実習をすべて受講し、材料システム工学科として初の卒業生が輩出されます。

1年生では、ものづくりの基礎を学ぶため、「材料加工実習」として材料加工に関する基礎的な実習を行います。ここでは、鋳造、鍛造、旋盤加工などの一般に行われている加工を学び、将来のエンジニアとしてのセンスを身につける科目となっています。また、危険な作業を安全に行うことができるように、安全に関する基本的な知識を学びます。

2年生から専門科目としての学生実験が始まります。「材料システム実験1」では、化学実験として実験器具や分析機器の特性を理解し、取り扱うことができるように実験が組み入れられています。化学反応の基本である熱分解反応や沈澱反応などについて理解を深め、レポートの書き方を習得することを目的としています。また、3年生で開講される「材料システム実験2」では、金属材料に関する実験を行い、光学顕微鏡による組織観察や硬さ試験、引張試験など、基礎的な実験方法について学びます。

4、5年生で開講される「材料システム実験3、4、5」では、実験内容もさらに専門的かつ高度になります。座学で行われている講義内容に準じており、専門科目の理解を深めながら複雑なデータ解析やより専門的な考察が必要となっています。また、卒業研究や教員の研究で利用する高度な実験装置や分析装置を活用した実験も行われ、これらの使用方法や解析方法を理解して、5年生での総まとめ科目となる「卒業研究」で活用できる実験構成となっています。今後は企業と連携した実験項目も検討されており、社会ニーズに対応できるよう変更も行われていく予定です。



材料加工実習の様子（鍛造加工）



基礎的な化学実験（中和滴定）



光学顕微鏡による金属組織の観察



高度な分析装置を用いた材料の解析実験

学生会の取組

『ありがとうございました。』

高専祭実行委員長 陣内 一徹

今回は学生と教職員のみの高専祭となりましたが、クラスでの出し物・バンドやダンスの出演など多くのご参加、誠にありがとうございます。今回は2年連続のコロナ渦での開催ということもあり、あまり皆さんに来ていただけないのではないかと不安もありましたが、予想以上の観客数で高専祭を無事開催出来たことを嬉しく思います。

僕は実行委員会の同級生や先輩方、後輩たちに凄く感謝しています。今学年は実行委員長なので、頼れるリーダーになるべくそれらしく振舞うつもりでしたが、あまりできていなかった気がします。僕は抜けているところしかないので、副実行委員長の池田君と山元さんと各部署の長、同級生に何度も助けられました。本当にありがとう。皆と4年間一緒に活動出来て良かったです。恥ずかしながら低学年のころの僕は本当にクソガキでした。実行委員会には月に1、2回位しか参加せず、来てもずっとおしゃべりだけで仕事はあまりせず、本番に遅刻して昼過ぎに来たこともあります。その頃の僕が将来実行委員長になると言っても誰も信じないでしょう。そんな僕を笑って許してくれたかわいがってくれた会計部署の先輩方、本当にありがとうございました。先輩方とご飯や温泉に行ったり遊んだりした事は本当に楽しかったです。今回の高専祭は準備期間が僅か2週間程しかなく、折角新しく実行委員会に入ってくれた後輩にあまり多くの事をしてあげられませんでした。それなのに先輩として慕ってくれて嬉しかったです。皆が少しでも実

行委員会楽しい、と思って続けてくれることを願っています。後輩皆凄く可愛いです。本当にありがとう。友達ができたらいいなという軽い気持ちで実行委員会に入りましたが、実行委員を通して、皆と関わった事を本当に幸せに思います。

2021夏はコロナ陽性者が増えていたこともあり、高専祭ができるかも危ぶまれましたが、飲食の出店を中止したり神輿や花火を中止したりと感染リスクを下げることで何とか開催を認めてもらうことができました。3年生以上の皆さんはご存じだと思いますが、本当の高専祭はもっと盛沢山で盛り上がり楽しいです。なのでコロナ渦が収まった後に、どのような高専祭になっているのか今から楽しみにしています。後輩の皆、頑張ってください!!



『第56回体育祭』

体育祭実行委員長 野呂 剛平

11月5日(金) 雲ひとつない晴天に恵まれ第56回体育祭を無事開催することが出来ました。コロナ禍ではありましたが、五年生の保護者の方々にご来場して頂いたことをこの場をお借りして御礼と感謝申し上げます。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で体育祭の準備期間が2週間しかありませんでした。ですが、高専生達は例年通り元気で、なんとか成功させるために応援団の練習や看板製作などを頑張ってくれました。



しかも、各学科の団長や5年生の協力もあり体育祭当日は予定していた時間内に終わることができました。そんな素晴らしい体育祭の実行委員長をさせて貰えたこと大変嬉しく思います。

また、人前で話をするなど他に変えられない経験をさせていただいたことは僕の人生においてかけがえのない財産となりました。今年の体育祭実行委員会は、例年に比べて遥かに少ない人数で体育祭の運営や準備を行いました。それにもかかわらず、準備不足や運営の遅れなど大きなトラブルはありませんでした。これには本当に驚きました。もはやプロフェッショナルの集まりです。僕は5年間実行委員として活動をしてきましたが、実行委員のみんなの支えがなかったら、体育祭を成功させることは到底出来ませんでした。勉強や部活など忙しいにも関わらず実行委員に入ってくれて、頼りない実行委員長についてきてくれた事に大変感謝しています。校長先生をはじめとして、体育祭の開催にあたって協力して頂きました教職員の皆様、学生の皆様方に体育祭実行委員会一同心から感謝申し上げます。来年は後輩たちが今年よりもいい体育祭を作り上げることでしょう!来年も楽しみにして頂けると嬉しいです。

課外活動報告

『達成感』

ダンス同好会 河野 有希

ダンス同好会は踊ることが好きな人達が集まった同好会です。ダンス経験者はほぼおらず、初心者も多く活動しています。コロナ禍になる前は、週に2回基礎的なリズム練習を行い、高専祭などの直前は毎日練習するなどして活動していました。

例年は6月の文化部発表会と11月の高専祭の年に2回、発表の場を用意して頂いていますが、今年は文化部発表会が中止になったため、高専祭のみとなりました。

普段であれば高専祭に向けて披露する曲を選び、振付を考え、使用する曲を編集し、みんなで振り立ち位置や移動覚え、曲と振りに合う衣装を考えて…と約2ヶ月かけて準備をしていますが、今年は高専祭の為の練習が可能になったのが本番の2週間前からでした。

練習できるのが2週間のみだと聞いた時、正直冗談だと思ったし、2週間で人に見てもらえるレベルまで仕上げる、ということが想像できませんでした。私の感覚では2週間でゼロから形にするのは確実に不可能だと思いました。

5年生2人で試行錯誤した結果、今年は1から新しい作品を制作するのではなく、過去の高専祭で踊った動画を部員に共有し、各自で自粛期間の間に覚えてもらうことにしました。

それでも、“人が踊っている動画を見てそれと同じように踊る”というのは単純に振付を覚えるよりも難しく、全員が集まった時、どのくらいのレベルになるのか、みんな本当に覚えてきてくれるのか不安でした。

しかし、対面授業が始まり、高専祭の練習もできるようになってから、昼休みなど空いた時間を見つけては、学年関係なく一緒に練習して必死に振付を覚えてくれて、5年生の私達が想像していたよりも遥かに速いスピードで完成することができました。後輩達の集中力と一致団結した時のパワーには本当に驚くとともに救われました。

そして高専祭当日、ダンス部のみんなが必死に2週間で仕上げたおかげで全員で楽しく踊ることができました。例年よりも圧倒的に短い期間でダンスを仕上げた今年は、今まで以上に達成感を感じました。

私が入学した頃と比べると、近年は部員も少なくなり思うような活動もなかなかできませんでしたが、コロナ禍が収束したと思う存分活動できるようになったら、後輩たちには何ヶ月もかけて1つのものをつくる達成感や、大勢の人達の前で踊る楽しさを沢山味わってほしいと思います。

また、学年も男女も問わず随時部員を募集していますので少しでもダンスに興味のある方はぜひダンス部員に声をかけて下さい！



体育大会及び各種コンテスト優秀結果一覧

第56回全国高等専門学校体育大会

(1月4日～1月9日)

競技種目	成績	備考
ラグビーフットボール	準優勝	

第8回全国高等専門学校弓道大会

(8月21日～10月10日)

表彰学生	表彰内容	備考
永江 周助	男子個人 準優勝	

第58回九州沖縄地区高専体育大会の主な成績

(11月6日～11月7日)

競技種目	成績	備考
ラグビーフットボール	優勝	

第58回九州沖縄地区高専体育大会代替大会の主な成績

(8月26日～12月19日)

競技種目	種目詳細	氏名	成績
陸上競技	男子100m	草場 進太郎	優勝
	男子100m	草場 健太郎	第2位
	男子200m	草場 健太郎	第2位
	男子400m	岩崎 良太	第3位
	男子800m	金子 純也	第2位
	男子4×100mR		優勝
	男子4×400mR		優勝
	男子砲丸投	山内 雅也	第2位
	男子円盤投	山内 雅也	第3位
	女子100m	片田 莉菜	第2位
	女子800m	藤井 美咲姫	優勝
	女子円盤投	清原 小百合	優勝
バレーボール	女子		準優勝
	男子		第3位
バドミントン	個人戦女子ダブルス	金丸楓佳・堤菜帆	第3位

KYFA 第28回 九州高等専門学校U-19サッカー大会

チーム名称	成績
サッカー部	優勝

第32回全国高等専門学校プログラミングコンテスト

チーム名称	メンバー氏名	表彰内容
そうだ、結局僕達にはプロコンしか	樋口陽介、稲田雄大、二又康輔	競技部門 第3位

第54回九州沖縄地区国立高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト

表彰学生氏名	表彰内容
松下 綾花	プレゼンテーション部門 第2位

第15回「オリエント世界」作文コンクール

表彰学生氏名	表彰内容
白石 よしの	入選

令和3年度 大学編入学合格状況等

令和4年2月末時点

大学名	合格者数					
	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料システム工学科	計
千葉大学 (工)	1	-	-	-	1	2
東京工業大学 (工)	-	1	-	-	-	1
東北大学	-	1	-	-	-	1
長岡技術科学大学 (工)	-	-	-	1	-	1
静岡大学 (工)	-	1	-	-	-	1
豊橋技術科学大学 (工)	2	1	-	5	1	9
名古屋大学 (工)	1	-	-	-	-	1
名古屋工業大学 (工)	1	-	-	-	-	1
山口大学 (工)	-	1	-	-	-	1
九州大学 (経済)	-	-	-	1	-	1
九州大学 (工)	3	-	-	4	1	8
九州工業大学 (工)	1	3	-	-	1	5
九州工業大学 (情報工)	-	-	4	-	1	5
佐賀大学 (理工)	-	2	1	2	-	5
佐賀大学 (農)	-	-	-	5	-	5
熊本大学 (工)	-	1	2	1	2	6
鹿児島大学 (工)	1	-	-	-	-	1
東京理科大学 (理)	-	-	-	1	-	1
室蘭工業大学 (工)	1	-	-	-	-	1
東京都市大学	1	-	-	-	-	1
北海道大学 (工)	1	-	-	-	-	1
安達文化学園専門学校ビジョナリーアーツ	-	-	1	-	-	1
合計	13	11	8	20	7	59

令和3年度 久留米高専専攻科合格状況

大学名	合格者数					
	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料システム工学科	計
久留米高専専攻科 (推)	4	4	4	3	4	19
久留米高専専攻科 (学) 前期	3	5	4	6	3	21
久留米高専専攻科 (学) 後期	1	3	2	1	2	9
合計	8	12	10	10	9	49

令和3年度 専攻科・大学院合格状況

令和4年2月末時点

大学名	合格者数		
	機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻	計
東京工業大学大学院	2	2	4
大阪大学大学院	1	-	1
九州大学大学院	2	1	3
奈良先端科学技術大学院大学	-	2	2
東京大学大学院	1	-	1
合計	6	5	11

令和3年度(令和4年3月)卒業予定者の就職内定状況

令和4年1月末時点

機械工学科	トーテックアメニティ株式会社、日本精工九州株式会社、住友ベークライト株式会社、三菱電機ビルテクノサービス株式会社、株式会社LIXIL、株式会社SUMCO、新菱冷熱工業株式会社、株式会社ニコン、日産自動車株式会社、株式会社安川電機、株式会社デンロコーポレーション、株式会社ナスカ、株式会社日野ビューテック、三菱ガス化学株式会社、昭栄化学工業株式会社、西部電機株式会社、株式会社トヨタプロダクションエンジニアリング、株式会社東洋新薬、ノダック株式会社、株式会社ディスコ、旭化成株式会社、東海旅客鉄道株式会社、KMバイオロジクス株式会社、富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社、株式会社九電工、東京消防庁
電気電子工学科	株式会社日産オートモーティブテクノロジー、中部電力パワーグリッド株式会社、佐賀エレクトロニクス株式会社、東京都交通局、株式会社ARIKI、東京水道株式会社、株式会社デンロコーポレーション、株式会社Ruby開発、住友電設株式会社、西部電機株式会社、九州電力株式会社、九電テクノシステムズ株式会社、ローム・アポロ株式会社、日本放送協会、株式会社J-POWERハイテック
制御情報工学科	京セラコミュニケーションシステム株式会社、株式会社インフォコム西日本、SUBARUテクノ株式会社、株式会社AXSEED、株式会社三松、トーテックアメニティ株式会社、株式会社USEN-NEXT HOLDINGS、CTCシステムマネジメント株式会社、株式会社NTT東日本-南関東、ダイキン工業株式会社、I-PEX株式会社、株式会社中央エンジニアリング、富士フイルムビジネスイノベーションジャパン株式会社、株式会社日本ビジネスエンジニアリング、AJS株式会社、キャノンシステムアンドサポート株式会社、株式会社モビテック、九電テクノシステムズ株式会社、株式会社安川電機、株式会社MJC、株式会社日陸、株式会社ソフト九州、株式会社栄電舎
生物応用化学科	株式会社東洋新薬、住友電気工業株式会社、東洋インキSCホールディングス株式会社、昭栄化学工業株式会社、大日精化工業株式会社、小川香料株式会社、旭化成株式会社、KMバイオロジクス株式会社、株式会社資生堂、協和発酵バイオ株式会社、中外製薬工業株式会社、クロレラ工業株式会社、MHIソリューションテクノロジーズ株式会社
材料システム工学科	大日精化工業株式会社、株式会社フジコー、日産自動車株式会社、京セラ株式会社・国分工場、株式会社LIXIL、日本精工九州株式会社、株式会社アーレスティ、I-PEX株式会社、東洋インキSCホールディングス株式会社、東伸熱工株式会社、株式会社東研サーモテック、彦島製錬株式会社、株式会社佐賀LIXIL製作所、日本精工株式会社、三井金属鉱業株式会社、株式会社三松、MHIソリューションテクノロジーズ株式会社、昭栄化学工業株式会社、富士フイルムビジネスエキスパート株式会社、福岡県職員

企業名は順不同

令和3年度(令和4年3月)専攻科修了予定者の就職内定状況

令和4年1月末時点

機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻
ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ株式会社、住友電気工業株式会社、株式会社安川電機、株式会社LIXIL、日本精工株式会社、アイリスオーヤマ株式会社、キオクシアシステムズ株式会社、NECネットエスアイ株式会社、I-PEX株式会社、株式会社福岡銀行、三菱ケミカル株式会社、三菱電機システムサービス株式会社、株式会社エヌ・ティ・ティ・データ、株式会社ラック、株式会社メンバーズ	第一三共ケミカルファーマ株式会社、沢井製薬株式会社、株式会社三井化学分析センター、日本精工株式会社、東洋精機株式会社、株式会社ジェイテクト

企業名は順不同

学生の活躍

ラグビー部が第52回全国高等専門学校ラグビーフットボール大会で準優勝しました

令和4年1月4日（火）～9日（日）、第52回全国高等専門学校ラグビーフットボール大会が兵庫県の神戸総合運動公園で開催されました。本校は、初戦で仙台高専名取キャンパス、二回戦で神戸市立高専、準決勝で宇部高専に勝利し、決勝に進みました。決勝では大会3連覇中の奈良高専に破れはしましたが、準優勝という立派な成績を収めました。

この準優勝について、本校ラグビー部主将 柿野 航輝さんが以下のようにコメントしています。

この度、久留米高専ラグビー部は第52回全国高等専門学校ラグビーフットボール大会に出場し、準優勝という結果になりました。全国大会で準優勝に入賞するのは実に21年ぶりとなります。

11月の九州大会では決勝で部員数の少ない佐世保に僅差で勝ちました。それから何が悪かったのかを検討し、それを練習で克服して良い状態で全国大会に臨むことができました。そして初戦、二回戦、準決勝を自分たちの練習してきたことを出し切って全試合逆転勝ちすることができました。しかし、決勝の奈良高専には完敗し、力の差を見せつけられました。自分たちにはまだまだ練習が足りないことが分かりました。後輩たちにはこれを機に打倒奈良高専で来年は全国の頂点を獲ってほしいと思います。

最後になりましたが、日頃よりご指導、ご支援を頂いている先生方、OBの方々、学生課をはじめとする学校の方々、皆様のお陰で今年も部活動を行うことができました。また、このような結果を残すことができたのも皆様のご尽力のお陰であります。これからもご期待に添えられるよう精進して参ります。ありがとうございました。

主将 柿野航輝（機械工学科5年）



準優勝を果たした久留米高専フィフティーン、マネージャー、指導陣